

04/23・米、イラン原油全面禁輸 日本などの特例5月2日撤廃 供給源で先高感

- ・先端人材55万人不足 経産相試算 30年、AIやIOT 急増する需要に追いつかず

04/24・19年度版外交青書 対北朝鮮「最大限の圧力」文言削除

「北方四島は日本に帰属する」も 日韓関係は「非常に厳しい状況に直面」

- ・ハーレー、米からタイへ移管 対中輸出拠点 欧州向け現地生産も 追加関税回避

04/25・巨大IT規制多面的に 政府案公表 「忘れられる権利」見送り < 1 >

個人情報保護法、利用停止権で対応 成長との両立図る

- ・日銀、緩和継続を明確化 金融政策決定会合「少なくとも来春まで」
- ・ファーウェイ 英が一部容認 5G、携帯大手に配慮（すでに銅製品使用）
- ・テロ未対策なら原発停止 規制委、二度延長許さず 13基に期限迫る
- ・韓国マイナス成長 1-3月0.3%減 設備投資が急減 中国企業台頭も影

04/26・ロ朝首脳会談（25日ウラジオストク） 段階的非核化を支持 米けん制

プーチン氏「6ヵ国協議を」に正恩氏は触れず 中ロ首脳、北京で会談（26日）

- ・「一帯一路」首脳会議始まる 「債務のワナ」に対応策 批判受け低姿勢演出
相手国の財政、持続可能性を配慮 インフラ建設、国際ルール順守

04/27・米成長率3.2%に加速 1-3月、輸出増が押し上げ 消費減速先行き懸念も < 2 >

04/28・日米首脳会談（26日ワシントン） 貿易交渉「早期妥結に協力」 < 3 >

合意時期、駆け引き続く トランプ氏「今回合意できないか」 安倍氏「大統領線前に」

トランプ氏「他国に劣後嫌だ」 自動車数量規制・為替条項、残る不安

04/29・トランプ氏「日本、対米投資4.4兆円」詳細不明 「大量の防衛装備購入も約束」

- ・アフリカ融資全額保証 政府、インフラ種出 中国に対抗

04/30・グーグル29%減益（1-3月）増収も市場予想に届かず 広告収入に陰り < 4 >

- ・サムスン「総崩れ」、半導体64%減益（1-3月） ディスプレイ赤字 < 5 >
- ・欧州政治、内向き脱せず スペイン総選挙 与党勝利も極右躍進

05/01・アップル、減収減益（1-3月） 中華圏落ち込み 業績底打ち感も

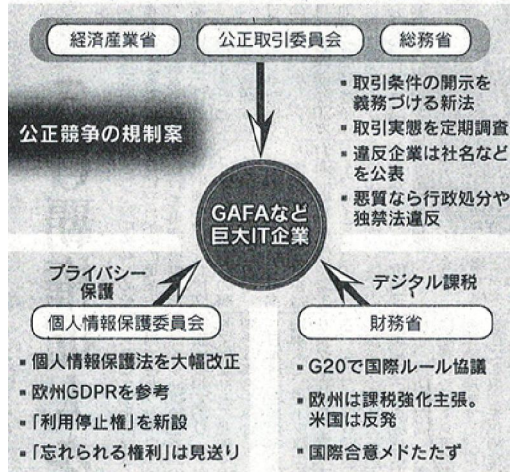
- ・ユーロ圏、1.5%成長（1-3月年率） 個人消費が堅調

05/02・イラン原油制裁除外撤廃 米、各国に対応迫る 中国は反発、輸入継続も < 6 >

- ・ファーウェイ、テレビ参入 年内にも 5G・8Kに対応へ

<1>

プラットフォーム規制に3本の矢



<2>

1～3月期の米GDP速報値

	金額 (億ドル)	増減率 (%)
国内総生産	189,123	3.2
個人消費支出	130,710	1.2
民間設備投資	27,820	2.7
民間住宅投資	5,961	▲2.8
民間在庫投資	1,284	—
純輸出	▲8,993	—
輸出	25,765	3.7
輸入	34,758	▲3.7
政府支出	32,077	2.4
GDPデフレーター	—	0.6

(注)金額は季節調整済み、年率。2012年基準価格。増減率は前期比年率。▲はマイナス

(出所)米商務省

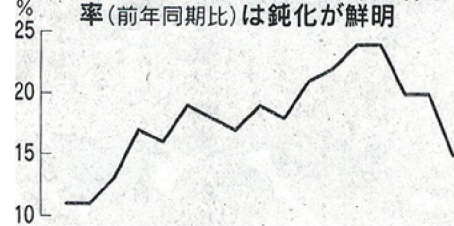
<3>

貿易交渉を巡る日米の姿勢

日本側		米側
夏の参院選後の早期妥結	合意時期	早ければ5月訪日時にも
TPPなどの水準が限度	農業関税	関税撤廃を要求
数量規制に反対	自動車	対日貿易赤字の削減を
貿易交渉とは切り離し	為替	財務長官が為替条項に意欲
協議対象の拡大には慎重	サービス分野など	物品交渉後にサービスも協議

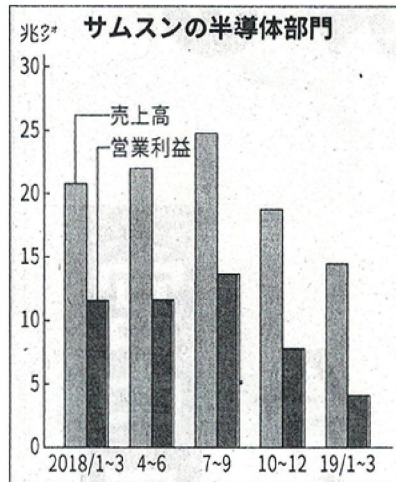
<4>

アルファベットの広告事業の伸び率(前年同期比)は鈍化が鮮明



<5>

サムスンの半導体部門



<6>

▼イラン産原油禁輸の適用除外 米国のトランプ政権は、オバマ政権時代に英独仏中ロとともにイランとむすんだ核合意を2018年、一方的に離脱し、関連制裁を復活させた。18年11月からのイラン産原油の禁輸では市場の混乱を避けるため、180日の猶予期間を設け、一部に適用除外をみとめた。中国、インド、韓国、日本、トルコ、イタリア、ギリシャ、台湾の8カ国・地域は一定量の購入をみとめられたが、5月2日をもって猶予措置は期限を迎える。